

令和3年度第4回 南房総・館山地域公共交通活性化協議会次第

令和4年3月22日（火）15：15～
於：館山市コミュニティセンター1階展示ホール

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 令和3年度協議会事業の結果について 【協議第10号】

(2) 令和4年度協議会事業計画案について 【協議第11号】

4 その他

交通事業者からの情報提供、ほか意見交換など

5 閉 会

	役 職 名	氏 名
1	千葉県総合企画部 交通計画課長	豊田 和広
2	南房総市副市長	嶋田 守
3	館山市副市長	鈴木 雄二
4	東日本旅客鉄道株式会社 館山駅長	簾谷 幸治
5	一般社団法人千葉県バス協会 専務理事	成田 斉
6	日東交通株式会社 運輸部長	高橋 晴樹
7	ジェイアールバス関東株式会社 館山支店長	竜崎 広幸
8	鏡浦自動車株式会社 専務取締役	平野 直
9	南房タクシー株式会社 代表取締役	本間 裕二
10	一般社団法人千葉県トラック協会 常務理事	池田 和弘
11	日東交通労働組合 安房支部代表	丸山 徹
12	安房土木事務所 調整課長	長嶋 正明
13	南房総市住民・利用者代表(富山地区)	高橋 佐一
14	南房総市住民・利用者代表(白浜地区)	本橋 清一
15	館山市住民・利用者代表(連合会長・館山区連合町内会長)	山崎 秀雄
16	館山市住民・利用者代表(連合副会長・富崎地区連合区長会長)	嶋田 政雄
17	国土交通省関東運輸局 交通政策部交通企画課長	板垣 友圭梨
18	関東運輸局千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	佐藤 義尚
19	館山警察署 交通課長	木村 泰行
20	安房道の駅連絡会会長	鈴木 賢二
21	館山市社会福祉協議会事務局長	井澤 浩
22	NPO 法人まちづくり支援センター代表理事	為国 孝敏
23	日本大学理工学部交通システム工学科 教授	轟 朝幸

丸線・平群線の実証運行に関する利用者実績報告（期間計）

R4.3.22

実証期間：令和4年1月17日（月）～3月13日（日）56日間

運行ルート：丸線（細田・川谷～三芳分庁舎～那古宿～イオンタウン館山～館山駅）

平群線（平群車庫～三芳分庁舎～安房地域医療センター）

●利用者人数（週間値：3/7～3/13の7日間） 期間合計2,638人 週平均330人

路線	丸線		平群線		合計	
	期間	週間	期間	週間	期間	週間
下り	1,046	145	75	11	1,121	156
上り	1,430	198	87	13	1,517	211
1日計	2,476	343	162	24	2,638	367
1日平均	44.2	49.0	2.9	3.4	47.1	52.4
1便平均	4.1	4.5	0.3	0.3	2.3	2.5

- ①丸線：
下り（川谷方面）、
上り（館山駅方面）
- ②平群線：
下り（平群車庫方面）、
上り（医療センター方面）

○過去の調査数値

- 令和元年度の年間利用者数からみた1日当りの利用者数 丸線22.9人 平群線20.4人
- 令和2年度の実証運行時の1日当りの利用者数 丸線27.7人 平群線5.6人 小型車10.5人 計43.8人
- 対前年平均値との比較 丸線+16.5人 平群線△2.7人 計+0.4人

●状況報告

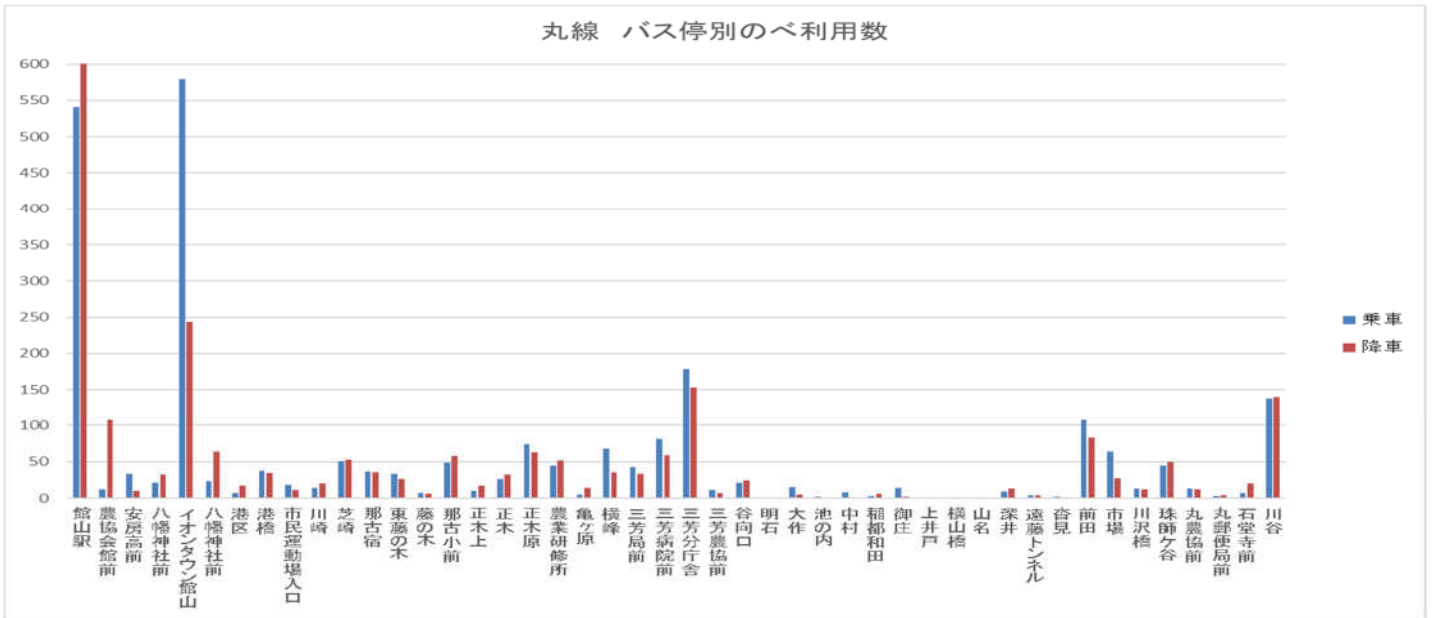
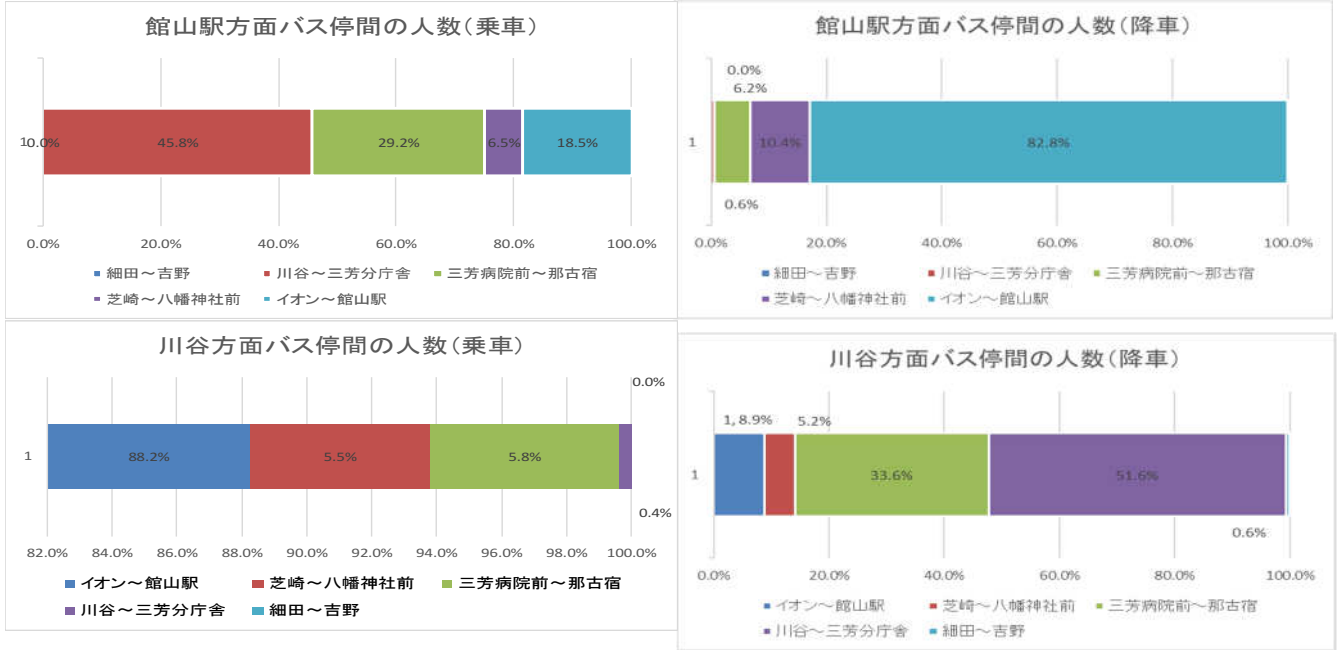
- 期間中の利用者数は、2,638人だった。前年度と比べると約107%の割合
- 丸線上りのバス停別利用では、三芳分庁舎、前田、川谷などから乗車し、館山駅やイオンタウン館山などで降車する傾向である。
- 丸線下りのバス停別利用では、上りの逆となり、館山駅やイオンタウン館山などから乗車し、三芳分庁舎、前田、川谷などで降車する往復利用が見受けられる。
- デマンド運行のべ利用者数は、117人で、全集計の約4.9%、平群線の約72%である。その多くの方が、定期利用で、三芳分庁舎で丸線に乗り換えている。
- 丸線①便（館山駅行）の利用者が1日平均6名程度おり、丸線計の約14%を占め、全便のうち最大の利用者数となっている。通勤のほか、病院と買い物を午前中に済ませようとする人が見受けられる。
- 丸線の平日利用（85%）、土休日利用（15%）と差が出ている。平日では、お買い物需要として火曜特売のあるイオンタウン館山への火曜日利用が最多であった。

●利用者等ヒアリング

- （平群線）乗り換えがない方が良いが、デマンドでも利用している。丸線からの帰りの乗り継ぎ待ち時間がもったいないのでそこは何とかしてほしい。
- （平群線）運賃は助かるが、これまでの通常運行でいい。
- （平群線）イオンや館山駅に直通便で利用したい。
- （丸線）混乗からの乗り継ぎ利用している。帰りの乗り継ぎをスムーズにしてほしい。
- （丸線）お昼ごろの館山駅からの帰りの時間を変えてほしい。

●平群・丸線パスについて ・販売実績8枚

●丸線のエリア別の利用状況



※参考値 (令和2年度実証運行)

●令和2年度実証期間利用者人数 (R3/1/18～3/14の56日間) 期間合計2,452人、週平均306人

路線	丸線		平群線		小型車		合計	
	期間	週間	期間	週間	期間	週間	期間	週間
下り	640	90	125	11	294	47	1,059	148
上り	912	118	189	20	292	51	1,393	189
1日計	1,552	208	314	31	586	98	2,452	337
1日平均	27.7	29.7	5.6	4.4	10.5	14.0	43.8	48.1
1便平均	2.6	2.7	0.7	0.4	1.2	1.3	1.6	4.4

- ①丸線：
下り (川谷方面)、
上り (館山駅方面)
- ②平群線：
下り (平群車庫方面)、
上り (館山駅方面)

●上記実証期間終了後の利用者人数 (R3/1/15～4/14の31日間) 期間合計1,517人 週平均379人

路線	丸線	平群線	合計
下り	454	233	687
上り	512	318	830
1日計	966	551	1,517
1日平均	31.2	17.8	48.9
1便平均	3.2	2.5	2.9

神戸地区等買い物シャトルサービス実証運行 利用状況等中間報告

○利用状況（3月12日運行分までを記載しています）

単位：人

コース名	おどや		イオン		コース別合計	
	往路	復路	往路	復路	往路	復路
コース1（西岬西・布沼・洲宮・茂名等）	15	15	17	15	32	30
コース2-1（佐野・佐野西・富崎等）	11	11	6	7	17	18
コース2-2（小塚・竜岡・中里等）	22	21	11	12	33	33
行先別合計	48	47	34	34		

コース別1台当り平均利用者数	
コース1	3.9
コース2-1	2.2
コース2-2	4.1
行先別1台当り平均利用者数	
おどや	4.0
イオン	2.8
延べ利用者数（往復別々に計上）	163
1台当り平均利用者数（延べ人数から）	3.4

○利用者の声（一部抜粋）※市職員が添乗した際に聞き取りを行いました。

- ・こうした取組は大変ありがたく助かる。
- ・移住してきたが、免許を返納し、今はシニアカーで移動している。
こうした移動手段ができるのはありがたい。
- ・今は免許を持っているが、次は更新しないつもり。認知機能検査が厳しくなると聞いていて、次回は検査に通る確証が持てない。
- ・眺めが良いこの場所に移住してきたが、車の運転が厳しくなると住み続けられるか不安である。
- ・今はまだ車に乗れるが、将来のことを考えて利用している。
- ・出かけるとなれば、きちっと身なりを整えるなど準備をする。家でグダグダしているより良い。健康にも良い。
- ・おどやにベンチがあると助かる。
- ・イオン行きは1時間では足りない。90分程度は確保してほしい。
- ・この時期は菜の花の収穫等で忙しいため、利用できない友人もいる。
- ・病院は送迎に、買い物は子や孫に頼ることが多い。
- ・自転車で出かけることもあるが、つらい。

○実証を通じて分かってきたこと

・予想以上にご利用いただいている状況。
⇒郊外部では自助共助が強いと考えていたが、困っている人がいることが分かった。
・目的地への直通需要が支持されている。
⇒高齢になり乗換がづらい、乗継が悪いといった声があった。
・頼る人はいるが頼みづらい、気を遣うといった人が一定数存在する。
⇒自分の好きなときに出かけられる楽しみがあることが分かった。
・割合は少ないかもしれないが、運転免許を返納（又は持っていない）した
⇒特に移住された方を中心に、不安を感じている様子がかがえた。

○参考：定期的なご利用が見られるエリア

コース1	
西岬西地区（坂足、小沼）	路線バスが運行休止中
布沼・洲宮地区	路線バスは通学時間帯のみ 移住者も多い
コース2-1	
佐野西地区（一部犬石地区）	バス停まで距離がある 移住者も多い
コース2-2	
竜岡地区（松岡区も含む）	バス停まで距離がある

※富崎地区（コース2-1で巡回）については、昨夏に実証運行を行った「富崎ぐるっとバス」の本格運行を、GSMではなく一般車両を用いて実施する予定である。

別記第3号様式(第8条)

持続可能な地域公共交通の確保支援事業補助金実績報告書

令和4年 3月 日

千葉県知事 熊谷 俊人 様

所在地 南房総市富浦町青木28
名称 南房総・館山地域公共交通活性化協議会
代表者氏名 会長 豊田 和広 印

令和3年7月13日付け千葉県交計指令第132号で補助金交付の決定のあった持続可能な地域公共交通の確保支援事業について、千葉県補助金等交付規則第12条の規定により、関係書類を添えてその実績を報告します。

(添付書類)

- 1 補助対象事業が完了したことを確認するに足りる書類
- 2 補助対象経費の支払いを証する書類
(但し、協議会に資金がなく、補助金が支払われた後でなければ事業者に支払いができない場合は、「確約書」を添付すること。)
- 3 控除対象となる収入額を確認できる書類

持続可能な地域公共交通の確保支援事業補助金
補助対象事業完了実績表

補助対象者名 南房総・館山地域公共交通活性化協議会

(単位：円)

実施項目	補助対象事業費	備考
新たな交通システムの実証運行 (平群線のデマンド運行)	4,206,000 円	
新たな交通システムの実証運行 (買い物シャトルサービスの運行)	705,000 円	
合計 ⇒(A)	4,911,000 円	
控除対象収入額	金額	備考
その他補助金交付申請額 (備考欄に補助金等の名称を記載)	円	
寄附金	円	
その他の収入	300,000 円	運賃収入
合計 ⇒(B)	300,000 円	
補助対象事業費 (A)	4,911,000 円	
控除対象収入額 (B)	300,000 円	
補助対象経費 (C=A-B)	4,611,000 円	
補助金交付申請額 (C×1/2 または 補助上限額 のいずれか低い方)	2,305,500 円	

注 地域公共交通確保維持改善事業費補助金(地域公共交通調査事業(計画策定事業))を併せて活用する場合は、国庫補助金のうち実態調査又は実証運行事業費相当分を記載し、該当部分の国庫補助金交付申請書類等の写しを添付すること。

南房総・館山地域公共交通活性化協議会 R4事業計画案

事業名称	具体的内容	合同計画への位置づけ	予算要求額 (千円)
平群線（三芳地区）の再編 ⇒AIデマンド交通の実証 【地域内路線の再編】	令和3年度の実証結果を踏まえ、三芳地区並びに館野・九重地区の一部を含めたエリアにおいて、AIオンデマンドシステムを活用したフルデマンドバスの実証を行う。運行エリアが広範囲に及び、集落も点在しているため、AIオンデマンドシステムを導入し、少ない台数（2台想定）で効率的な運行を行えるかを検証する。 【運行計画案】 ・期間：R4.10～R5.3の半年間 ・運行エリア：上記のとおり （館山駅・イオン等の目的地は降車専用としてポイントを設定し、対象エリアとの行き来を可能とする） ・運行形態：フルデマンド型 ⇒予約に応じ、あらかじめ設定されたポイント（ゴミ収集箇所レベル）まで迎えに行き、利用者が希望する降車ポイントまで送り届ける仕組み ・運行曜日：週5日予定 ・運用台数：2台予定 ・車両：ハイエース（11人乗り）以下を予定 ・委託先：タクシー事業者を予定 ・システム：プロポーザル審査による導入	事業3 地域内路線の再編及び有効活用（丸線・平群線）丸線・平群線の見直し	13,497
豊房線の再編 ⇒買い物シャトルサービスの実証 【地域内路線の再編】 【公共交通空白地対策】	豊房神余地区では、バスが通っている県道から外れた集落が多く存在するため、日中に集落を巡るコースでシャトル便を設定し、拠点商業施設等（市街地循環バスと乗継可能な場所）まで送迎するサービスを実証する。合わせて、白浜地区の長尾橋周辺（割烹旅館清都がある海岸沿いの集落など）も運行範囲に含め、既存路線が利用できない人がどれくらいいるか等を把握する。 【運行計画案】 ・期間：R4.10～R5.3の半年間 ・運行エリア：長尾橋周辺～豊房神余地区各集落～館山市内（商業施設等拠点となる場所まで運行） ※運行ルートを2パターン設定する ・運行形態：定時定路線型又はフルデマンド型 ・運行曜日：各パターン週2日⇒週4日 ・運用台数：1台予定 ・車両：ハイエース（11人乗り）以下を予定 ・委託先：タクシー事業者を予定	事業2 地域内路線の再編及び有効活用（白浜千倉館山線・豊房線） ②豊房線の見直し 事業5 フィーダー交通・補完交通の整備	5,437
公共交通空白地対策アドバイザー派遣 【公共交通空白地対策】	平群、豊房エリアでの実証その他公共交通空白地対策に当たり、当該地区住民のニーズのくみ取りや意見交換等を効果的に実施し、より良い事業内容とするため、アドバイザーを招へいし、当該地区での意見交換会や事業内容立案に参画してもらう。	事業2 地域内路線の再編及び有効活用（白浜千倉館山線・豊房線）	500
公共交通定額乗車券企画・造成 【利用促進・分かりやすい利用環境整備】	運賃額の確認や都度の切符購入といった手間を省き、かつ運賃の負担感を軽減することを目的に、1週間〇円、1か月〇円といったサブスクリプション型の定額乗車券を企画・販売し、新たな需要の掘り起こしによる利用者増を狙う。なお、販売に当たっては、LINE等の活用も検討し、観光客・市民等の更なる利用者拡大を図りたい。	事業9 利用しやすい・利用したいと感じてもらえる環境の整備	500

※上記のほか、会議開催経費699千円を見込み、総事業費20,633千円として予算要求しています。（左記を2市で按分し、更に国・県補助の活用を想定しているため、各市予算計上額は7,567千円となります）